

活動レポート

日本技術士会北海道本部

青年技術士交流委員会

文責：青年技術士交流委員会 幹事 阿部 和弘

青年技術士交流委員会 合格者&若手技術者対象ワークショップ

「つながり～いま、だから気付こう／築こう」

下記内容にて、「令和3年度技術士第1次試験・第2次試験合格者&若手技術者対象オンラインワークショップ」を開催いたしました

◆開催日時：令和4年5月14日(土)

13:30～16:00

◆開催内容：「クロスロードゲーム」によるグループワーク

◆開催方法：オンライン形式(Zoom)

◆対象者：令和3年度 技術士第1次試験・第2次試験合格者、若手技術者

◆参加者：会員・準会員／10名、会友／1名、一般／3名、合計14名

以下に実施内容をご報告いたします。

1. はじめに

世の中には様々な“つながり”があります。

上下関係、同僚、家族、友人などの「人のつながり」をはじめ、「技術のつながり」、「自然のつながり」、「物質と精神のつながり」、「情報のつながり」等が挙げられます。

しかし、“つながり”はプラスがある反面、マイナスと感じてしまう要素もあります。昨今は、非接触技術やICTにより様々な人と簡単につながることができるようになった一方、リアルならではの温度感や関係性が希薄になり、今までと“つながり”が変化していると感じることがあると思います。

そこで、本イベントでは「クロスロードゲーム」による交流を通して、“つながり”の変化が孕む「ジレンマ」を参加者同士が改めて考え、多様な知見や発見に気づき、新しい“つながり”を築くことを目的として開催いたしました。

2. クロスロードゲームとは？

ワークショップでは、阪神・淡路大震災をきっかけに防災教育のツールとして開発された「クロスロードゲーム」を活用したグループワークを行いました。このゲームはある設問に対して各自が“YES”か“No”のカードを提示するとともにその理由を示し、多数派の意見を勝者として「座布団」を獲得できるもので、最終的なその数を競い合います。なお、少数意見も貴重であるという観点からカードの提示に際し、1人だけが“YES”か“No”となった場合はその人が「金座布団(3枚分の座布団に相当)」を獲得できるルールになっています。

3. オンライン「クロスロードゲーム」での工夫

今回のクロスロードゲームでは活発な交流から新たな“つながり”を築くにあたり「“YES”、“No”にした理由を述べる」「『○○と同じ意見です』は厳禁」「相手の意見は絶対に否定しない」「人の意見に耳を傾ける」等を条件として実施しました。くわえて、事前の自己紹介は「私はこう見えて意外と○○です」を発表してもらい、更に交流を深められるよう工夫しました。(猟銃免許を所持している、実はスポーツマン等々、意外な一面を知ることができました！)

対面形式のクロスロードゲームは青年技術士交流委員会として令和元年まで実施していたものの、オンライン形式は初めての試みでした。グループワークはZoomのブレイクアウトルーム機能で6～7名の2組に分けて実施し、オンラインでは“YES”、“NO”カードを使用できないため、Zoomのリアクション機能を活用しました。(図-1)



◆みんなのカードがそろったら、進行役の「せいの！」という声に合わせて一斉にカードをオープンします。
→今回はYESなら👍、NOなら👎ボタンをお願いします。

図-1 リアクションボタンの活用

4. オンラインでも和気あいあいと

「オンライン形式で意見交換が活発に行われるか」が運営側の不安要素でしたが、設定した条件とファシリテーターを務めた中出技術士、正田技術士補の司会力もあり、終始賑やかな雰囲気で行われたワークショップは進められました。

クロスロードゲームでは、「コロナ禍に普及したコミュニケーションの変化」「仲間との繋がり」「テレワーク下における仕事と家庭の関係」「時代で変化する上司と部下の関係」等、青技交メンバーが準備した様々な“つながり”を意識した設問によって意見交換がなされ、金座布団もチラホラ見受けられました。

あなたは、30代男性で妻の出産直後から3か月の育児休業を取得しています。

そんな中、あなたが管理技術者を務める業務で、育児中に緊急でおかつ高度な対応を要するヘルプ依頼が来りました。あなたは管理職になったばかりで、部下に仕事をすべて任せることにやや不安を感じています。立場が代わったばかりで仕事に追われていたこともあり、育児前の部下への引き継ぎが不十分と感じていて、あなたでなければ対応が難しいと感じています。でも、自宅では初産の妻が産後のため動けず、コロナ禍の影響で遠方の父母の手伝いも見込めません。

あなたは、引き受けますか？

YES : 妻に子供を任せて、仕事を引き受ける 👍
NO : 部下に仕事を任せて、お断り 👎

図-2 クロスロードゲームの例題

参加者は全員若手技術者という立場とはいえ、中間管理者や二ヶ月目の新入社員等が混在していたため、世代間ギャップがはっきりと表れる設問もありました。また、各設問は解説も用意し、作問の経緯、作問者の思い、日々の悩み等をグループで共有し、回答後に設けた一定の雑談時間では各社の工夫等の情報交換に努めることができ、若手技術者同士で刺激合うことができました。



写真-1 中出技術士(上段左)班



写真-2 正田技術士補(上段中)班



写真-3 参加者の集合写真

5. おわりに

今回のイベント自体がオンライン形式での実施となり新しい「つながり」を象徴とするものでした。

筆者は釧路市からオンライン参加であり、遠隔地の参加者にとって移動時間や交通費等の負担が少ない有利な方法である上、多くの技術者に交流の機会を与えられる環境は様々な刺激を受け、多面的な視野を養うきっかけになると改めて思いました。アンケート結果でも「自分の意見を客観的に意識するきっかけとなった」「自分にはない価値観や考え方を学べた」という声がありました。今後もこのようなイベントによって新しい「つながり」を築き、多面的な視野を養う環境整備に努めたいと思います。